Will

KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE



専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

同窓生インタビュー

「もう大丈夫」と思えるまで、笑顔で関わり続ける
生きるためのすべてを支えるために
作業療法学科 9 期生 大前 博司さん …… 4

MESSAGE

専門学校 健祥会学園は同窓会とともに
専門学校 健祥会学園 校長 武田 英二 …… 2
「共創」と「競争」の時代 ダイナミックな進化を！
健祥会グループ 理事長 中村 太一 …… 3

同窓会総会 …… 6
特別講演
＋UPDATE 4学科卒業生近況報告 …… 8
一日 CAMPUS 見学会 …… 10
TOPICS
学園祭 挑戦 ～平成最後の…～
同窓会勉強会報告 …… 11
NEW FACE | 編集後記

2019 MARCH VOL.12



MESSAGE

専門学校 健祥会学園は同窓会とともに



専門学校 健祥会学園

校 長　武田　英二

1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院 小児科、高松市民病院 小児科、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 徳島健祥会福祉専門学校 校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）
受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞・2015年日本病態栄養学会アグライア賞

1、健祥会学園としての飛躍

本校では介護福祉士、保育士、幼稚園教諭、理学療法士、作業療法士を養成し、多くの人財が社会で活躍しています。2018年4月から「専門学校 健祥会学園」に校名を変更いたしました。従来の福祉を専門とする学校から、医療に関する教育を強化し、他の専門職養成も視野にいれていることが理由です。

本校の、建学の精神は、「「福祉は人 人は心」の理念を体得し、グローバルな視点を持った「礼儀と感謝」を実践する福祉と医療のスペシャリストを養成する」です。また、教育方針は、「礼儀と感謝を実践し、保育、医療、介護の知識・技術を知恵に変えることができる現場力を有し、ダイバーシティの観点を持った「心と心を繋ぐ人財」を育成する」です。教職員はこれらを胸にきざんで学生の教育・支援を行っています。

2、職業実践専門課程」の認定を受けて

2018年2月に、介護福祉学科、理学療法学科、作業療法学科は文部科学省から「職業実践専門課程」に認定されました。「職業実践専門課程」は、教育の質、教員のレベル、教育環境が評価された教育課程であり、本校には今後も教育レベルの向上が求められます。また、専攻分野に関する企業・団体等と連携して、授業科目の開設その他の教育課程の編成、企業が求める実践的な職業教育、また、教員に対し、実務に関する組織的な研修も求められています。保育学科は現在「職業実践専門課程」を申請しています。

教育の基本として、生活習慣、すなわち食事、運動、睡眠、休憩を確立して勉強の時間を確保することを指導しています。生活習慣はだれにとっても大切で、長い人生が右上がりになるようにコツコツと技術、知識、教養を積み重ねていくことが必要です。さらに、禁煙の徹底も指導しています。高齢者、子ども、患者の生活、とくに健康を支援する専門職は、自分自身の健康にも注意しなければなりません。高血圧や肥満などの死亡原因をすべて相加した以上の危険性を喫煙は有しており、同窓生も先頭に立って禁煙を指導していただきたいと願っています。

3、同窓会との連携

健祥会施設や同窓生と連携して進めている24時間クレアチニン排泄量から筋肉量を評価するサルコペニア研究も興味深い成果を得ています(Morishita T et al: J Med Invest 65: 122-125, 2018)。高齢者で筋肉量が10kg以下、体重に対する筋肉量の割合が20％以下、クレアチニン身長係数が50％以下になれば、何らかの歩行障害を示すこと、さらに、血中ビタミンD濃度の著明な低値も明らかになりました。こうした成果をもとに目の前のケアされている高齢者や患者に対する科学的介護やリハビリテーションが可能になります。

最後になりましたが、同窓生には学生の実習等でお世話になっており、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。とくに厳しい指導の中で、頑張ったことをほめていただき、飛躍できた学生を見ると、ありがたい気持ちでいっぱいになります。新たな「専門学校 健祥会学園」は健祥会グループの学術部門として、また同窓会とはお互いに連携できるプラットホームとして、ともに発展できることをめざしたいと思います。





「共創」と「競争」の時代 ダイナミックな進化を！

健祥会グループ
理事長　中村　太一

1996年東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
2013年健祥会グループ理事長に就任。また、2016年11月徳島商工会議所第25代会頭、徳島県商工会議所連合会会長、日本商工会議所総合政策委員会委員に就任。徳島県総合計画審議会委員や徳島市都市計画審議会会長、徳島地方最低賃金審議会委員、日本貿易振興機構徳島貿易情報センター会長、関西広域連合協議会委員など、多くの国・県・市の審議会や委員会の委員に就任した。徳島県ゲートボール協会会長、四国地域協議会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合評議員としてゲートボールの普及にも携わる。

建学の精神のもと、新しい時代へ

同窓生の皆様には、日頃より本校と同窓会活動にあたたかなご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本校は、1996年の創立以来、2018年度末までに2、800名余の卒業生を送り出してきました。

この間、本校と同窓生諸氏を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。変わりゆく時代のニーズに柔軟に対応するとともに、介護だけでなく、幅広い専門分野の学びの府であることを内外に広く知らせるために、昨年、校名を専門学校 健祥会学園と改め、新たな一歩を踏み出してまいっております。皆様の中には学び舎の名称が変わることに一抹の寂しさを覚えた方もいらっしゃったかもしれませんが、進化のための変革であると前向きに受け止め、応援くださいますよう、改めてお願い申し上げます。

実践を見据えた高度専門職を育てる

校名変更と歩を一にして、文部科学省より、「職業実践専門課程」の認可もいただき、「人々の健康と幸福に資することができる実践力を有し、広く優しい心を持った専門職を養成する」という建学の精神のもと、ダイナミックな改革に取り組んでいます。

そのひとつがICTの活用による効率的なカリキュラムの展開であり、継続的持続的な教育内容の進展と教員のレベルアップです。また、企業・行政・学術団体との連携も積極的に推進し、実践を見据えた高度専門職を育てる態勢づくりをすすめています。

生産性のアップをめざして、国をあげて働き方改革がすすめられています。医療・介護現場にも、ICTやAIの活用が広がっており、健祥会グループの介護現場でもロボットが介護職をサポートしています。その動きはどんどん加速し、これからの専門職には、高い専門性に加え、ICTやAIを使いこなす力が不可欠です。

本校を専門性の拠り所として

生産年齢人口の激減を補うために、新たな在留資格による外国人労働者の受け入れ拡大が図られようとしており、我が国はいま、革命的といっていいほどの変革期にあります。

皆さんが生きる時代は多様な人財が能力を発揮しながら競い合う「共創」と「競争」の時代です。どうか立ち止まることなく専門職としての高みをめざして下さい。本校も、いつまでも皆さんに誇りに思っていただける頼もしい母校であり続けられるよう、進化を続けます。

人口減少により、新入生といわず社会人入学生といわず、入学生の獲得には苦戦しています。可能性のある方へはぜひお声かけくださり、在学生への手厚い教育はもちろん、卒後教育への注力といった本校ならではの強みをぜひともお伝えくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

皆様方には、本校を専門性の拠り所とし、同窓会を切磋琢磨する場としてどんどん活用し、それぞれのレベルアップにつなげていっていただきますよう念願します。各所での卒業生の皆さんの頑張りを嬉しく、誇らしく思いつつ、ますますのご活躍を祈念いたします。専門職として、どうか、いつもどんなときにも、「心からの優しさ」を！



専門学校 健祥会学園 同窓会副会長

大前 博司さん 30歳（作業療法士）

2011年3月、徳島健祥会福祉専門学校（現 専門学校健祥会学園）作業療法学科卒業。4月、医療法人愛生会に入職、兼松病院に勤務する。現在、チームリーダーのひとりとして回復期リハビリテーション病棟を支えている。

「もう大丈夫」と思えるまで、笑顔で関わり続ける 生きるためのすべてを支えるために

「病気に休みはない」という信念のもと、年中無休で診療を提供する鳴門市の医療法人愛生会兼松病院。1962年の開設以来、地域密着を実践する総合病院のリハビリテーション部に、徳島健祥会福祉専門学校（現 専門学校 健祥会学園）作業療法学科9期生大前博司さんを訪ねた。

なぜ作業療法士を志したのですか？

志といえるようなかっこいい意志があったわけではなく、看護師の母から、これからリハビリテーションがとても重要になるから、専門職をめざしてはどうかとすすめられたのです。患者さんのために仕事する母の姿を見て育ちましたから、医療の世界がとても身近だったせいもあり、すんなりと作業療法士の道を選びました。

専門学校での3年間で一番思い出深いことは？

作業療法学科は1クラスでずっともちあがりですし、担任も卒業まで同じなので、本当にみんな仲良くて楽しい3年間でした。実習はすごく大変だったけど、困難に向かってみんなの気持ちがひとつになり、励ましあえる環境でした。なので、一番の思い出は、一大イベントである実習が終わった達成感と、その後の先生とクラス全員での打ち上げの楽しかったことです。

就職先に兼松病院を選んだわけは？

この病院で実習させていただいたことがきっかけです。リハビリテーションが非常に充実していることと、地域密着の姿勢が素晴らしいこと、スタッフの雰囲気などが自分にあっていると感じたことなどから、ここにお世話になりたいと思いました。

具体的にどんなことに取り組んでいますか？

回復期リハビリテーション病棟に3つのチームがあるんですが、そのひとつのチームリーダーとして、また、高次脳機能班のリーダーとして、脳血管障害や骨折などの方へのリハビリと、社会復帰のための支援に取り組んでいます。日常生活活動（ADL）のためのリハビリはもちろんのこと、再び車に乗れるよう教習の支援をしたり、昨年からは就労支援にも取り組んでいます。





就労支援まで作業療法士の分野なのですか？

生活行為の維持向上を支援するのが作業療法士の仕事です。生活行為とは人が生きていく上で営まれる生活全般の行為と定義され、セルフケアを維持するための日常生活活動（ＡＤＬ）のほか、生活を維持する手段的日常生活活動（ＩＡＤＬ）、仕事や趣味、余暇活動などの行為すべてが含まれます。運転支援については、徳島県作業療法士会でプロジェクト化され、数年前から教習所や警察と連携して実践しています。

一方の就労支援は昨年始まったばかりです。作業療法士会に就労支援研修会を立ち上げ、障害者職業センターや産業保健総合支援センターの研修を受けて知識を増やしながらすすめています。様々な職種が協働し、他の機関や団体とも連携しながら取り組んでいます。

就労支援の実践例を聞かせてください

１年間で数例あるのですが、印象深いのは脳梗塞で左半身に麻痺の残った高校教諭のケースです。急性期病院で　20日ほど入院のち、私たちの回復期リハビリテーション病棟へ転院してこられました。当初から復職を希望しておられ、しかも、3週間ほど先の卒業式に出席することを強く望んでおられました。

その方は、左手足が動かないことに加え、左半身を認識できない、集中できない、時折感情的になるといった症状があり、少し記憶障害も見られました。当初は起き上がるのにも介助が必要でしたが、リハビリを重ね、学校の環境を確認した上で、卒業式には私が同行の上、車椅子と杖で出席することができました。生徒さんたちもすごく喜んで迎えてくれて、感動的でしたね。

病院でのリハビリと並行して、職場環境の確認をすすめ、学校側には、配慮していただきたい事項…例えば記憶障害については重要書類の確認を上司にお願いするとか、左からのアプローチをさけていただくとか…などを伝えました。車はハンドルを改造することで、運転できるようになり、希望通り、職場復帰することができました。ご本人にもご家族にも本当に喜んでいただけましたし、一人の方のこれからの人生に、少しでもお役に立てたんだなと感慨深いものがありました。

支援において心がけていることは？

退院後をしっかり見据えることです。日常に必要な活動がこなせるようになって退院しても、そのまま元の生活を取り戻せるわけではありません。まずは在宅復帰、さらに職場復帰や社会参加まで果たせて初めてリハビリの成功です。なので、常に退院後を考えながら患者様に向き合い、最善策を考え続けています。そして退院後もデイサービスや訪問リハなども利用していただきながら、関係を保ち続け、必要な限り関わり続けます。

どんな同窓会であってほしい？

卒業してから4～5年は、毎週のように学校へ通ってました。仕事で行き詰まったとき、悩んだとき、図書館で調べ物をしたり、先生に相談したりするんです。卒業後も学校は心強い拠り所であり、自分次第で学び続けられる場です。だから同窓会をもっと活用してほしい。そのために、勉強会をもっと充実させていきたいです。臨床の事例に対して、きちんと理論で整理していけるように、テーマごとの勉強会を系統的にできたらなと考えています。

仕事の上での目標は？

一口にリハビリテーションといっても、支援のあり方は百人百様で、これでいいというマニュアルはありません。ケースごとにしっかり患者さんに向き合い、その希望や暮らしの状況に寄り添い、患者さんの人生がより豊かなものになるよう、最善の支援をすることが大事。患者さんがいちばんの先生で、教わることばかりです。一生勉強を続けながら、一人でも多くの方を笑顔にしたいです。

特に職場復帰の支援は始まったばかりの取り組みですから、まだ手探り状態。連携の輪を広げながら、後進の役に立つようにケーススタディを積み上げていきたいです。

リハビリに使う道具も、患者さんに合わせて手作りするという大前さん。気さくな笑顔の裏側に、高みをめざす強い意志や挑戦への気概が秘められている。そして、その笑顔が輝いているのは、そこに仕事への誇りと喜びがあるから。苦しいリハビリを頑張る患者さんを支え励ます、やさしい笑顔だ。

取材協力：医療法人愛生会 兼松病院
鳴門市撫養町斎田字大堤54

～平成30年度～
専門学校 健祥会学園

同窓会総会

2018/7/7（SAT）
ホテルグランドパレス

校名を専門学校 健祥会学園に改めて、はじめての同窓会役員会・総会が開催されました。
総会では校長・健祥会グループ参事・同窓会長の挨拶のあと、
平成29年度事業報告・会計報告・平成30年度会計予算（案）・事業計画（案）・役員改選が上程され、すべてが滞りなく承認されました。

同窓会の人財は学校の教育成果そのものです

専門学校 健祥会学園 校長　武田 英二


校長 武田 英二

卒業生の皆様には、日頃より学生たちが実習でお世話になり、ありがとうございます。本学では、福祉中心の印象を払拭し、幅広い専門職の育成を担っていることを社会に周知してまいるために、２０１８年４月、校名を専門学校 健祥会学園と改め、新しい歩みを始めました。ｉｐａｄやポートフォリオを活用した効率のよい教育、勉強時間確保のために正しい生活習慣獲得への指導、さらに、文部科学省の職業実践専門課程認定校として、教育内容の進展と教員の継続的レベルアップを図るとともに、企業・行政・学術団体との連携も推進しつつ、次のステップへと進んでまいります。
同窓会の人財は学校の教育成果そのものです。皆様の活躍を常に把握し社会にアピールするとともに、皆様に対してはプラットホームとして情報提供に努め、連携・協力体制を強固にしてまいりたいと考えます。ますます同窓会活動へのご参加ご支援をいただきたく、また飛躍・発展へのアイディアがあればどんどんお寄せください。

現場も変わる、本校も変わる、皆さんもたゆまぬ進化を！

健祥会グループ参事　田村 修司

徳島健祥会福祉専門学校では、創立20周年を節目として、「人々の健康と幸福に資することができる実践力を有し、広く優しい心を持った専門職を養成する」という建学の精神を、再確認しつつ、改革を進めてきました。そして、昨年４月、専門学校健祥会学園へ校名変更するとともに、文部科学省から「職業実践専門課程」に認定され、新たな歩みを始めています。
進めている改革の一つがＩＣＴの活用です。本年度より、理学療法学科・作業療法学科の全学生にタブレット端末を貸与し、学習に、教員とのコミュニケーションに、効果を上げています。保育学科ではポートフォリオ評価を導入しました。
医療・福祉現場も変わってきています。健祥会グループの認定こども園・保育園では登退園をタブレット端末で管理し、介護現場ではロボットのサポートにより、介護職の負担軽減が図られています。今後ＩＣＴやＡＩの活用は加速するでしょうし、皆さん方専門職にもＩＣＴの実践スキルが必要な時代になったといえます。
本校がこれまで世に送り出した人財は２６７２名、この中には、現場を経験したのちに教員として戻ってきてくれる人たちもたくさんいます。良い学校とは卒業生が集ってくれる学校です。今後もさらに人財を輩出しながら、卒業生の集える場をめざして、活発に有意な発信をしてまいりたいと思います。
同窓会活動、並びに本校教育活動へのますますのご支援をお願い申し上げます。

専門性と、職としての理念を高くもって

同窓会長 藤原 慶治


同窓会長 藤原 慶治

６年に一度の診療報酬・介護報酬の同時改定の年、４月以来、現場ではご苦労なさっていることと思います。同窓生の皆さんには、移り変わる制度に柔軟に対応しつつ、専門性と、職としての理念を高くもって頑張っていただきたいと念願しています。
平成29年度も、学科別研修会や講習会の開催、会報誌ｗｉｌｌの発行、オープンキャンパスへの参加など、当会の活動にご協力いただきありがとうございました。
総会に先立って開催された役員会では、同窓会への年会費制の導入、総会開催の日程の検討、組織運営の見直しなどについて様々な意見が交わされました。今後、同窓会諸氏の同窓会活動参画への意識づくりと魅力ある活動の展開などが課題であると思います。よりよい同窓会活動を展開できますよう皆様方からも忌憚のないご意見をお寄せください。

総会終了後、徳島県立海部病院や上勝町診療所、徳島県立中央病院地域医療センターで長年にわたって地域医療やへき地医療支援に従事され、現在は徳島県保健福祉部次長を務めておられる、鎌村好孝先生にご講演いただきました。

特別講演

「わたしたちが暮らす『地域』における『包括ケア』って」

～これまで。今、そしてこれからに向けて～(抜粋・要約)

徳島県保健福祉部次長 鎌村 好孝先生

鎌村先生は、「徳島県は、人口10万人あたり医師数が全国平均240.1人に対して315.9人で、全国一。女性医師数は全国2位と、高い数字を示す一方、医師の高齢化は全国平均より高く、地域による医師の遍在化も問題です。残念なことに、女性も男性も健康寿命は最下位に近く、糖尿病罹患率は今年またワースト1になってしまっています。

6年ごとに見直される保健医療計画の第7次計画が今年4月からスタートしています。今回の計画では、従来の4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)および5事業(救急医療、小児医療、周産期医療、災害医療、へき地医療)に、新たに「精神疾患」及び「在宅医療」を加えた５疾病、５事業及び在宅医療について、個別具体的な検討を行い、県民にとって必要な医療を切れ目なく提供する体制の構築に取り組むこととなっています。」として、5疾病5事業に対応した地域医療機関の機能分担と連携、地域医療を支える医療従事者の確保など、医療提供体制を整備・充実するための対策のほか、自宅や施設でも安心して療養生活を送るための在宅医療と介護の連携体制の構築、高齢になっても健康で暮らしていくための県民の主体的な健康づくり推進などについて、目指すべき方向や実現するための課題を様々な角度からお話しいただきました。

また、災害医療については、東日本や熊本など被災地での事例を紹介いただき、

●DMAT（Disaster Medical Assistance Team）やさらに、DPAT（災害派遣精神医療チーム：Disaster Psychiatric Assistance Team ）の活動について

●災害時の体系的な医療救護活動のための「ＣＳＣＡＴＴＴ(スキャット)」について

●災害時介護福祉コーディネイターが福祉避難所だけでなく一般避難所にも必要であること



●応援より受援が難しいこと

●PDCAを繰り返すことの大事さ

●日常の弱点が災害時にはさらに際立ってしまうこと

●もしものときのための準備の8割は日常の改善の中にあること

●これは自分の仕事ではないという意識は禁忌であること

など学びました。

へき地医療では、限界集落などにおける地域づくりがポイントであり、人が育つまちづくりが望まれるとともに、在宅医療に関連しては、看取りの文化を取り戻そうと話されました。現在、病院での死が80%、在宅が16%。在宅死割合には地域差があることや高齢者施設での看取りが増えつつあることを指摘。国民の意識の変化にも触れ、急性期から慢性期、そして在宅へのスムースな流れのためには、病院機能の分担と連携が必要であること。また、多職種連携と顔の見える関係づくりが何より大切であると力説なさり、専門職としての高い志をもっていっしょに地域を支えていこうと結ばれました。







経験から学ぶこと

船戸　毅 さん　介護福祉学科7期生

勤務先　社会福祉法人さわらび会　特別養護老人ホームかもな園

＋2003年に卒業し、特別養護老人ホームかもな園に入職しました。現場では、実習で経験した以上に覚えるべきことや学ぶべきことが多く、最初は日々の業務をこなすのに精一杯。入職時に持っていた介護の理想や自分像に向かって取り組む余裕もあまりありませんでした。
そんな中でも、同期入職した職員と不安や喜びなどを共有し、相談し合ったり、切磋琢磨してきたことが、私に大きな力を与えてくれました。だんだんと、介護の楽しさが味わえるようになり、園の基本理念に沿った考え方・行動も自然に身に付き、それに伴って、利用者様とのより強い信頼関係も築けてきたように思います。
指導的な立場になって後進の指導に当たるとき、自分の新人時代の経験も活かしながら、その成長に新たな喜びを得ています。特養という生活の場で、利用者様に安心して楽しく毎日を過ごしていただくためには、職員自身も楽しみながら業務を行うことが大切だと強く感じており、これも伝えていきたいことの一つです。
介護職員から、介護支援専門員を経て、現在は生活相談員として、利用者様・ご家族への相談・援助と、地域との連携の調整を担っています。生活相談員としてまだ日は浅いですが、「より良い介護のためには何が必要か」という視点を常に持ち、現場からヒントを得ながら、解決策を提案できるキーパーソンとなれるように学んでいる最中です。
利用者様の「ここにきて　あの手この手で元気になって　やりたいことをやってやる」という意気込みを後押しできるように、これからもすべての職員とともに介護に取り組んでいきます！



＋UPDATE

それぞれの現場で頑張る 4学科卒業生近況報告



子ども達の成長を糧として

小西 由希也 さん　保育学科1期生

勤務先　上板町立保育所

＋子どもの頃からの夢である保育士・幼稚園教諭をめざして、保育学科に入学。2018年4月、夢を叶えて、現在、公立保育所に勤務しています。
子どもたちが保育所で安定した生活を送り、充実した活動ができるためには、どのような援助やかかわりが必要なのか、日々自問し、達成感を感じたり悩んだりしながら仕事に励んでいます。
現在2歳児を担任していますが、子どもは、給食に嫌いな食べ物が出ると「嫌だ」「食べない」と言います。「ちょっとでも食べよう」「美味しいよ」「これ食べたらもっと元気に遊べるよ」など、いろいろな声掛けをしますが、スムーズに食べてくれるときもあれば、上手くいかないときもあります。子どもたちに精一杯かかわっているつもりですが、「もっと良い声かけがあるのではないか」という疑問が頭から離れません。常に今の自分にできることは何だろうか、どうすれば良かったのか、反省の毎日です。
しかし、未熟な私とのやり取りの中でも子どもたちは笑顔を見せてくれて、「先生遊ぼう」と誘ってくれます。子どもたちと共に過ごす毎日の生活の中で、みんなが確実に成長していることを感じます。その成長が今の私の糧になっています。
来年度から公立保育所・幼稚園で正規職員として従事させていただくことが決まり、さらに気を引き締めて子どもと共に成長していきたいと思っています。





大学院へもチャレンジ

村口 良介 さん　理学療法学科5期生

勤務先　訪問ステーションてとてと

2000年に卒業し、長期実習先としてお世話になった博愛記念病院へ入職しました。当時まだ維持期病棟が主であり、患者様もご高齢の方が多い環境であったため、入職後は、多種多様な疾患に対応できるよう、様々な分野を勉強してきました。特に内部疾患を合併している方が多かったので、その勉強に努め、延長として、三学会合同呼吸療法認定士や糖尿病療養指導士等の資格を取得しました。その後、回復期リハ病棟や地域包括ケア病棟が新設され、急性期から回復期の患者様、特に脳血管疾患の患者様に携わるようになってからは、神経系の分野に知識を広げ、2015年に認定理学療法士（脳卒中）を取得しました。

大きな転機となったのは、2012年にグループ病院である世田谷記念病院（東京）への短期出向を経験したことです。新規開設の立ち上げスタッフの一員として携わらせていただきましたが、多彩な個性を持った人が様々な県から集まり、また都心部という相乗効果もあって、たくさんの良い刺激を受けました。これを機に、以前から興味のあった研究活動を専門的に行うべく、徳島大学大学院へチャレンジすることができました。

現在は、修士課程を卒業後、博愛記念病院の関連事業所である、訪問ステーション員「てとてと徳島員」という事業所に勤務しています。ここでは、訪問看護（訪問リハ含）、訪問介護、居宅介護支援のすべてが同じ事業所内に設けられており、三位一体のチームとして在宅支援に取り組んでいます。在宅支援の重要性が叫ばれる中、その効果についてもきちんと検証していきたいです。

次なる目標として、博士過程へ挑戦することができればと思っています。仲の良い健祥会の同期達も、臨床で、大学院で、また教員として、県内外で活躍しているので、これからも良い刺激を受けつつ、互いに高め合っていければいいなと思います。最近はまとまって集まることが少なくなったので、またお酒を交えながら今の状況や楽しかった学生時代の話をしたいですね。





「聴く大切さ」「伝える大切さ」

吉岡　諒 さん　作業療法学科8期生

勤務先　伊月病院

2010年に入職、2018年1月より副主任として勤務し、ALS等の神経難病の患者様のリハビリテーションを担当しています。構音障害や気管切開の患者様とのコミュニケーションには難しい面もありますが、「聴く大切さ」を感じながら向き合っています。また、自動車運転技術リハビリテーションも実践しており、他院からの紹介にも対応しています。机上評価に加え、DTS（Driver Test Station）、Hondaセーフティナビを導入し、教習所とも連携して取り組んでいます。徳島県作業療法士会の外出支援委員会の事務局も務めており、自動車運転について他院とも情報共有し、研修会にも参加しています。スキルアップのために四国作業療法学会や日本作業療法学会で発表し、「伝える大切さ」も感じています。



卒業生がナビゲーター

一日CAMPUS見学会

2018年7月28日(土)

各学科の卒業生にご協力願い、現場でプロとして働く先輩達の生の声を参加者の皆さんに届けました。「学生生活について」「授業内容について」「仕事について」など、リアルな話に熱心に耳を傾けていただくことができました。

■介護福祉学科



【ナビゲーター】

岩佐 悠可(特別養護老人ホーム 笑顔 11期生)
後藤 悠介(グループホーム 元気 19期生)
角瀬 亮　(リハビリレストラン空と海 18期生)

●先輩のお話

卒業生の介護福祉士３名に、介護福祉士になろうと思ったきっかけをお話しいただき、介護現場を経験して初めてわかるやりがいや喜びを伝えていただきました。



●生活支援技術模擬授業

ベッド上での水平移動と車いすへの移乗を体験。スライディングシートやスライディングボードを使うことで、介護される方の安楽だけでなく、介護者の負担軽減にもなることを実感していただけたと思います。

■理学療法学科



【ナビゲーター】

池住　祐哉(専門学校 健祥会学園　PT５期生)
板東　正記(専門学校 健祥会学園　PT５期生)
北田　　功(専門学校 健祥会学園　PT６期生)



「解剖」・「評価」・「治療」の三つのブースを設営し、それぞれのブースで理学療法士の業務を紹介しました。「評価」のブースでは、日常的に行っている動作である歩行に注目しました。理学療法的な視点に、参加者は興味津々でした。

■保育学科



【ナビゲーター】

吉田 真愛(とくしま健祥会保育園　保育福祉学科４期生)
出葉 優花(とくしま健祥会保育園　保育学科１期生)



コミュニケーションゲーム「ネームリピート」で、まず、リラックス♪その後、卒業生が中心となって風鈴づくりに挑戦。最後に保育現場でおなじみの手遊びやダンスで楽しい時間を過ごしました。

クリアタイプのコップを使って風鈴づくり。涼しげなものや可愛いもの、個性豊かな風鈴ができあがりました。

■作業療法学科



【ナビゲーター】

柳本　麻里(徳島平成病院　ＯＴ５期生)
寺橋　絵里(眉山病院　ＯＴ11期)
森　　未奈(眉山病院　ＯＴ11期)

臨床場面の写真を交え、病院や通所リハビリテーションでの作業療法士の仕事についてわかりやすく説明していただくとともに、治療だけでなく、病院の管理部門での活躍の様子も聞かせていただきました。また、仕事する中での様々な思いも語ってくださいました。参加者は「作業すること」の大切さを聴き、実際の作業を通して作業療法の効果について理解を深めてくれたようでした。



TOPICS

専門学校 健祥会学園 第23回学園祭

School Festival

「専門学校 健祥会学園」へ校名変更してはじめての学園祭。学園とともに、学園祭も新たな一歩への「挑戦」です。心配されたお天気も、学生の想いが通じたのか、両日とも晴天。青空の下、開催することができました。ステージイベント・学科紹介・アトラクション・模擬店など、学生の企画運営でとても盛り上がり、訪れてくださった皆様にも楽しんでいただくことができました。11月11日の介護の日のプレイベントとして、「認知症カフェ」も開催。認知症と認知症予防について、気軽に話し、知識を広げる場として、たくさんの方が来場してくださいました。

■文化講演会　10/27(土)

演題「安心して年を取ることができる地域づくり
～幸せになるために～」

講師　一井 美哉子 先生



多職種が連携し、チームが一丸となって全力でクライアントを支えた実践の一つひとつを語っていただきました。医療的なケアだけではなく、クライアントの心に寄り添う大切さ、最期をどのように生きたいかという思いを汲み取り、実現へと支援する大切さを教えていただき、医療・福祉の専門職をめざす学生たちの心に響く講演となりました。



「泣きっ面にワッチ」。聞く人すべての「暮らし」の中にそっと入りこんでいくようなPopsを作るべく結成されたバンドです。5thシングルス「大丈夫」はYou tubeで再生回数680万回突破！ＴＢＳ系ドラマ「37.5℃の涙」の主題歌にもなり、泣ける歌としてレコチョクウィークリーランキング１位を獲得。人気急上昇中のWacciに、開始早々客席はスタンディングで大盛り上がり。MCも楽しく、会場が一体になってイキのいいライブを楽しみました。



丸山 純奈さん

昨年は「とこまる」として出演していただいた徳島出身の中学生、丸山純奈さんが今年はソロで登場。透き通った美しい歌声が会場を埋めた観客のココロを包み込みました。

同窓会勉強会報告

専門職として常に進化し続けるために！「学び」を支える同窓会でありたい

介護福祉学科

2018年8月7日(火)11:00〜12:00

服を着たまま瞬速洗髪 ルームシャンプー体験会

●講師:日建リース工業株式会社 中谷 歩 氏
有限会社大林メディカル 平井　和剛 氏

●参加:12名

福祉用具の一つである最新の洗髪機の特徴と使用方法について、実際の体験を通して学ぶ勉強会を行いました。1ℓの水と家庭用の掃除機があれば簡単にできるルームシャンプーは、服を着たまま床も水で濡らすことなく、どこでもどんな体位でも使用できるので、介護施設や病院だけでなく、災害時の備えとしても注目されています。参加者からは、「準備や片付けが大変な洗髪がこんなに簡単にできるとはすばらしい！」「来てよかった」「最新情報をまた次も期待している」と歓迎の声が上がっていました。

2018年9月26日(火)11:00〜12:30

おむつの選び方と正しい使い方

●講師:ユニ・チャーム株式会社　國代 眞由美 氏

●参加:18名

尿取りパッドの吸水能力や洗浄液の使用感などを、利用者様の立場になり、体感を通して学習しました。また、正しいおむつの当て方のポイントを根拠とともにわかりやすく指導していただきました。終了後は講師に質問するための列ができ、参加者同士で排泄ケアについての議論も展開され、非常に活気ある有意義な勉強会となりました。

保育福祉学科

2018年12月7日(金)18:30〜20:00

低出生体重児や障害児・障害者のおむつについて

●講師:ユニ・チャーム株式会社　片山 真由子 氏

●参加:11名

急性期には体を動かすだけで、バイタルが変動したり、命を危険にさらす可能性すらあり、NICU(新生児集中治療室)では極力体に触れない“ミニマルハンドリング”の考えでケアが行われます。体位を変えざるを得ないおむつ交換時の赤ちゃんと看護師、双方の負担を極力低減するために、ミシン目を搭載したり、吸収体の幅を狭くしたり、テープを柔軟にしたり、おむつには様々な改良が施されているそうです。サイズも成長段階に合せて新生児用から1,000ｇの5Sまで。水遊び用やトイレトレーニング用パンツ、障がい児・障害者のためにも様々な紙おむつが開発されており、実際にいろいろ手にとって、形状や素材の違いなどを学びました。

2019年2月15日(金)18:30〜20:00

1年を振り返り、次年度に向けての取り組みについて

●参加:16名

各期の卒業生が参加し1年を振り返ったり、来年度の取り組みについて話し合いました。また職場の人間関係で悩む卒業生が多く、対処法や解決策等、意見を出し合いました。

理学療法学科

2019年3月7日(木)19:00〜20:30　**糖尿病に対する理学療法【実践編】**

●講師:ＫＫＲ高松病院　片岡弘明先生 / 内部障害専門理学療法士 日本糖尿病理学療法学会運営幹事

現在、第一線で活躍されている片岡先生より、臨床的な理学療法と、ご自身のデータと経験を中心に研究デザインの作り方やエビデンスレベルの高い研究方法まで、実践に資する内容をお話いただきました。

NEW FACE　新教員紹介



学監 川浦 昭彦　　着任：2018年４月

徳島大学医学部医学科、同大学院医学研究科を卒業し、2007年4月〜2018年3月までの11年間、吉備国際大学保健医療福祉学部理学療法学科に勤務していました。大学では内科、病理学、一般臨床医学の講義を担当するとともに、４年生や大学院生の研究、論文指導などを担ってきました。理学、作業、介護福祉、保育を深く学ぶには、内科、及び病理学を理解することが必要であると考えています。今までの大学での経験をいかして、患者さんや利用者さんの身になって考える高度な技術をもった医療や介護・保育関係者を育てると共に、学園のさらなる発展に少しでもお役にたてればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

■2018年度 専門学校 健祥会学園　同窓会役員

会　長	藤原 慶治(介護1期)
副会長	池村 健(理学3期)・大前 博司(作業9期)
	武田 英二(校長)
幹　事	長谷部有哉(作業5期)・竹内 大介(理学1期)
	乾 静香(介護14期)・多田 裕介(保福1期)
	片岡 一誠(理学12期)・武市 薫(作業9期)
会　計	加藤 志帆(理学9期)・木下 雄二(介護7期)
監　事	石井 嘉一(介護4期)・出葉 優花(保育1期)
	船戸 毅(介護7期)・荒岡 優(介護14期)

編集後記

「専門学校　健祥会学園」として歩み始めた2018年。母校の名称が変わることに一抹の寂しさを覚えつつも、より高い専門性と先進性を追求するために進化する母校を、卒業生として誇らしく思います。超高齢化と人口減少という時代の困難に立ち向かい、社会の「盾」となる人財を育成するという、ロゴマークに込めた学園の決意を、私たち同窓生も胸に刻み、学園としっかり連携しつつ、切磋琢磨してまいりましょう。専門学校 健祥会学園としてはじめての同窓会会報Will vol.12、制作にあたりご協力をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

事務局

社会福祉法人健祥会 専門学校
健祥会学園

専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

発行元　専門学校 健祥会学園同窓会　　発行日　2019 年 3 月 1 日
〒779-3105 徳島市国府町東高輪　　TEL088-642-9666

不許複製